

議会報告会

11月5日～13日

を開催しました

新たに各常任委員会で関連団体と意見交換会も

総務企画常任委員会：消防団
産業建設常任委員会：農業委員会

教育民生常任委員会：PTA連絡協議会
学校警察補導連絡協議会
青少年育成協会

議会報告会でのあいさつから



議長 塚田 秀知

◆議会報告会は、平成26年2月にプレ報告会として初めて開催し、翌年度から正式に始まり、今回が3回目となります。

開催時期が、これまでは1月下旬から2月上旬の最も寒い時期でありましたが、今年度は、秋の収穫後であり寒くならない時期に開催することといたしました。

議員13名を二班に分けて開催いたしました。町民の皆さんが思い描くような議会報告会、板に付いた議会報告会とは言えませんが、五里霧中の中にも光を見出そうと議会一丸となって努力しているところでございます。

▼この議会報告会は、

- ・町民に議会の活動や取組み状況を知っていただくこと、
- ・町民の意見や要望を聞きながら、

町政に反映、提言していくこと、を、目的としています。

▼議員は、町民から選挙され付託を受けた町民の代表であり、議会はその議員の集合体です。

議員の主義主張、考え方は十人十色でそれぞれ異なります。

その一方で、議会としての方向性や継続性もあり、一議員としての立場と議会の一員としての立場の両面を持ち合わせています。

▼議員として臨むなら「議員懇談会」でありますが、「議会報告会」は議会の一員として臨むものです。参加される町民の方々にも町に提言、提案を行なっていき

【開催状況】

1	11月5日(土) 午後1時30分 小川総合福祉センター	12名
2	11月6日(日) 午前10時 商工会館	3名
3	11月12日(土) 午後7時 盛谷体育館	12名
4	11月13日(日) 午後7時 小砂コミュニティセンター	7名
参加者数計		34名
前年参加者数(4回開催)		57名

は、この点をご承知おき願うものであります。

◆今年度は折りしも9月下旬から11月上旬にかけて、町長が主宰する「町政懇談会」が開催されました。時期が近いこともあって、「議会報告会」と「町政懇談会」を混同されたかもしれません。

議会には町政の執行権はなく、町政執行を質し、チェックする役目を持っています。そして、町民の意見要望を町に届け伝える役割も重要です。

議会報告会での町民皆さんからの意見や要望も踏まえながら、本議会や委員会活動を通じて、今後も町に提言、提案を行なっていきたいと思っております。



【広報委員会より】直接の関係はありませんが、大きな意味で町政の一つと考えています。



11月5日 すこやか共生館にて
説明する小川議員（教育民生常任委員）

報告1 議会活動について

質問 議会報告会の開催時期は、地域のイベントなどと干渉しないように。

回答 過去3回においては寒い時期で集まりにくいと言っ意見が多かったのですが、この時期を選んだ。今後も、支障の少ない時期を検討・選択したい。

質問 議員の政務活動費は必要で、議員報酬と別に考えて必要だ

と思うが、那珂川町議会に政務活動費はあるのか。

回答 ない。

質問 定数削減については、どのような話し合いになっているのか。

回答 議会改革長特別委員会の中の小委員会にて現在検討中である。次の改選までには、決定する方向で進めている。

質問 議会報告会の開催通周知について、回覧が無かったようだが。

回答 行政区への文書配布の際について、町広報紙と一緒に回覧をお願いした。

質問 44号の議会だより編集後記は、偏った考え方で政治色が強く、中立性を欠いていたのではないか。

回答 誤解を招くような内容は控えるべきであり、今後は注意をして編集時に確認をしていく。

議会広報特別委員会から 議会だより編集後記は、随想や歳時記、社会問題など、編集委員の様々な

所感となっていますが、誤解を招く内容とならないよう十分に注意していきます。

意見 本議会の一般質問者が偏っている。

報告2

平成27年度決算審査 意見の概要について

質問 広重美術館が毎年赤字と聞いており、何か方策を考えなければと思うが。

回答 毎年約3千万円の赤字だが、費用対効果だけではなく、広重美術館を核とした交流人口の増加や経済効果も目的としている。

質問 町の事業成果は表に出ていないように思えるが。

回答 決算審査でチェックしているが、全ての事業成果まで確認する事は難しい。

議会から 馬頭広重美術館の赤字問題について、抜本的な対策を町と協議、議論していきます。

意見交換

ごみの減量化対策について

質問 分別のコンテナに違う物が混ざっているなど、ごみ分別は守られていないのか。

回答 徹底した分別対策を講じるため、収集カレンダーの改善などを検討するよう町に提言して



11月6日 商工会館にて
益子町の議会議員（3名）も参加されました。

質問 各種の分別日が月1回なので、もっと日数を増やしてはどうか。

回答 回収日に忘れないで出せるような工夫が必要であるが、運搬費用の面で検討しなければならぬ。衛生センターへの直接持ち込みは随時できる。

質問 広域での資源ごみの収入額は公表されているのか。

回答 アルミ缶、ペットボトルなどで1670万円の収入があるが、公表はされていないので、報告できるようなしなればならない。

質問 那須烏山市と那珂川町で、ゴミ分別表の様式を統一できない



11月12日 盛谷体育館にて
広い体育館では寒々でした。

のか。

回答 ごみ回収は各自治体で行なっており、町で検討中である。

質問 ごみの『持ち去り』とは何か。

回答 町の指定業者でない人（業者）がアルミ缶や新聞紙などの資源ごみをごみステーションから持っていくってしまうことで、問題であり対応策を検討している。

要望 自分の区、町を綺麗にしようとする意識を持つために、議員にもっと動いてもらいたい。

町民の質疑意見から 県営馬頭最終処分場について

質問 処分場での原発事故由来の放射能廃棄物受け入れ反対の決議をすべきと思うが。

回答 教育民生常任委員会でも受け入れる基準値をどれ位に決定していくべきか協議していくとともに、原発由来の放射能廃棄物受け入れ反対の決議も議会で協議していく。

質問 放射性廃棄物受け入れに対して、議会の考えを聞きたい。

回答 前々年度の議会報告会でも、放射性廃棄物受け入れの質問を受け、各議員が受け入れないと答えていた。

処分場は北沢の不法投棄物を解決するための策として町が要請したもので、福島原発由来の放射性廃棄物が入って来ることは違いますが、町と県との協定に対して基準値の提言を行なっていきたい。

質問 町はPFI事業形態について知識が乏しいと思うが、議員はどのように認識されているのか。

回答 PFI方式については一般質問で問い質しているが、町から議会に対しての説明はない。議員はPFI事業形態について個別に

勉強をしているのが現状。今後、勉強会等も含めて検討していく。

質問 町政懇談会で、環境総合推進室長が「8千ベクレル以下のゴミは、ほとんど一般の処分場に入っていて存在していない」と答えたが、葉や枝など何ベクレルあるのかわからない廃棄物が処分場に入ってくる恐れが強い。室長の発言が本当なのかどうか、確かめてもらいたい。

回答 根拠は確認しないとわからないが、放射能廃棄物の受け入れに関しては、協議、勉強を続けていく。

質問 処分場に8千ベクレル以下の放射能廃棄物を入れる話があるが、議会としてはどうなのか。

回答 基準値は、県と町の環境保全協定の中で決定になる。何ベクレルが妥当なのか、今後、教育民生常任委員会でも協議をして議会で結論を出していく方向である。

要望 以前は県が運営すると言っていたのに、PFIの民間活力で進めて行く方向転換した。欺瞞（ぎまん）行為であり、質してほしい。

意見 これからの子供に何らかの健康被害を及ぼす危険性があり、この町に人がいなくなってしまう危険をはらんでいるので、万全を

期してほしい。

その他の事項で

質問 町の空き家対策の進捗状況はどうなっているのか。

回答 空き家の数は概ね把握しているが、再利用が可能かどうかまでは把握していないのが現状である。



11月13日 小砂コミュニティセンターにて
多岐にわたる質問意見をいただきました。

【広報委員会より】写真により横版としていましたが、縦版になるよう努めます。

質問 創生なかわが、処分場に関して本当に事業に参加しないのか、あとで参加するというような事にならないか、確認してもらいたい。

回答 処分場には一切関与しないとの明言があった。

質問 町が抱えている最大の課題は何と考えているか。

回答 人口減少と受け止めている。各自自治体も模索しているが、これといったものは難しく、正解は見えていない。

質問 側溝の溜めます等では、道路との段差が大きい場所が沢山あり危険だ。

回答 建設課に伝え、町道については早急に対応してもらい、県道・国道は管轄者へ改善を申し出るように伝える。

会場アンケートから

各会場でご協力いただいたアンケートから、意見や要望をご紹介いたします。

◎議会報告会に参加して

- ・出席者が少ないことにつながり。
- ・町政懇談会と日時が近すぎたこと

とが、出席者の少ない原因ではないか。

・町内の取組みが、議員を通じて知り得る利点がある。

・もっと具体的内容での会議を考えていた。このような形の報告会は必要なのではないか。町づくり懇談会等で十分。

◎議会に対して

・現在の町の状況の正確な情報分析、課題を把握して、町民に情報を発信してほしい。

結果、未来世代のために何ができるか、町民の意識が高まる議員活動をお願いしたい
・議員は議員の資質向上のための勉強会を行なった方がよい。

◎最終処分場・指定廃棄物について

・指定廃棄物の問題は、町の将来を大きく左右する問題だと誰でも理解できる。今後ともよろしく願います。

議会では、皆さんからいただいた意見や要望を踏まえて、町への意見書提出を検討しています

初の試み 常任委員会の 意見交換会

各常任委員会では、議会報告会に合わせ、関係団体との意見交換会を初めて開催しました。

特定の目的をもった団体のため、深まった意見交換となり、団体の抱える課題や町政への提言要望が出され、各常任委員会としても認識を新たにしました。

団員確保に行政区の協力を

《町消防団と》

総務企画常任委員会

11/19

総務企画常任委員会（岩村文郎委員長ほか委員3名）では、那珂川町消防団荒井論団長ら10名と、消防団活動をテーマとして意見交換を行いました。

▼団員確保のため、地域の協力、行政区の協力をいただきたい。

▼勤めのある消防団員が勤務中に出勤する場合に欠勤扱いとなることとがあり、町から企業に対して、協力をお願いしてもらいたい。

▼団員報酬が県内で最も低く、ブーツや手袋の支給など、待遇改善

を検討してもらいたい。

▼中学校に少年少女消防隊が組織されており、育成していきたい。

▼女性消防団については、女性防火クラブとの位置付け、役割を整理しないと難しい。女性団員は、予防や救護、避難誘導などに活動が制約され、大規模災害や現場では厳しい。

▼地域災害が頻発しており、地域防災組織をしっかりとしてほしい。



総務企画常任委員会

【広報モニターより】表紙写真に文字がかぶらないよう、3分割してみても。

団体間の連携と情報共有を

《町P連・学警連・町青少協と》

教育民生常任委員会

11/26

教育民生常任委員会（益子明美委員長ほか委員4名）では、那珂川町PTA連絡協議会小泉徳会長（馬小）、那珂川地区学校警察補導連絡協議会河原英明会長（馬頭高校長）、那珂川町青少年育成協会塚田正三会長ら3団体あわせて10名と、学校及び地域と家庭が抱える教育課題をテーマとして意見交換を行いました。

▼子供全体を考えるために、単体の活動だけでなく町全体の活動として各団体の横の連携が大切。



教育民生常任委員会

▼学校、教育委員会、警察機関、団体、地域は、子供達の健全育成としてみな同じ目標であり、情報共有のためにも、町全体として集

まり、子供達を見守るためのスタンスを話し合う組織があるとよい。

▼スマホ・SNSの使用時間が多いと勉強時間が少なくなり、学力の低下につながるが、メリットもあり、使い方・付き合い方を学校・家庭がともに考えていくべき。

▼子供達がメディア依存に陥らないような環境づくりを議論して考える社会づくりが必要。

▼何か事が起きた場合、自粛や禁止も必要ではあるが、危険であることを教えながら危険を回避する力を身に付けさせることも大切。

▼自閉症などの発達障害児童のカウンセリング料を助成してほしい。

▼不登校や引きこもりなどの戸別訪問では、子供にとって知らない人が多く、逆にプレッシャーになってしまう。

▼子供に本を読ませる、親が本を読んであげる習慣が少なくなってきた、子供の読書量が落ちている。読書は大切だ。



農業を取り巻く様々な課題

《町農業委員会と》

産業建設常任委員会

11/21

産業建設常任委員会（石田彬良委員長ほか委員3名）では、那珂川町農業委員会高嶋善壽会長ら19名と、農業施策をテーマとして意見交換を行いました。

▼収益性のある作物を推奨する指導・活動がほしい。

▼小さな農家が営農を継続するための町の支援がほしい。

▼行政による生産調整は来年度で無くなり、耕作放棄地が増える懸念がある。



産業建設常任委員会

▼攻めの農業・6次化より、高齢者でも実益があり、出荷まで取り扱える作物、仕組みがほしい。

▼JAとタイアップして「売る方法を確立する」ことが望まれる。一方で、販売ルートの確保が厳しい。

▼農業公社を設立しても追従できない人がいなくなるのではないかと、狭く傾斜地にある土地を借りる人もいないのではないかと。

▼TPP問題やJA組織問題など、国の農業対策がおかしい。

▼認定農業者資格の所得要件を緩めてほしい。

▼イノシシ捕獲後の引き取りを、休日も行なって欲しい。

▼議会・常任委員会の有益な視察情報は、積極的に公開して欲しい。



【広報委員会より】表紙の写真は全面写真を採用しています。

写真の肝心な部分に文字がかからないよう、文字の配置には気を付けています。

《常任委員会の経過》

教育民生常任委員会

開催日 11月22日

内容

健康福祉課長から健康増進計画後期計画「健康なかがわ21計画」(案)と介護保険介護予防日常生活支援総合事業について、また、子育て支援課長から認定こども園保護者負担金等について、それぞれ説明を受けました。

開催日 12月7日

内容

馬頭高校PTA会長及び同校同窓会長から提出された「県立馬頭高等学校通学費等補助金交付制度等に関する請願」について審査を行い、採択すべきものと決定しました。

開催日 1月10日

内容

議会報告会及び意見交換会での質問や意見、要望について検討を行い、また、町長への意見書案の検討を行いました。

開催日 1月31日

内容

住民生活課長から一般廃棄物処理基本計画(案)とごみ収集方法の見直しについて、また、学校教育課長から馬頭西小学校統合について、それぞれ説明を受けました。

行政視察の報告①

教育民生常任委員会

・長野県下條村と駒ヶ根市の
子育て支援事業から

11月1日と2日の2日間、教育民生常任委員会の行政視察として、長野県下條村の子育て支援住宅と同県駒ヶ根市の子育て支援センターの2カ所の子育て支援事業を視察しました。

◆下條村は、人口3900人余りの山村ですが、人口減少対策として平成9年から若者定住促進住宅の建設を行い、18年度までに178戸を建設。

重要施策として、子育て支援基金を創設して子育て支援の財源とし、保育料の軽減、出産祝い金や入学祝い金、給食費補助、若者専用住宅の家賃引き下げに充てるなど様

々な支援強化を図っていました。



下條村の子育て支援住宅

◆駒ヶ根市の子育て支援センター事業は、子育てカウンセラー配置のほか、園庭の芝生化や、保育室を床暖房にしたり、読み聞かせの場所を確保するなど、楽しく子育てする場の充実を図っていました。

行政視察の報告②

教育民生常任委員会

・さくら市のごみ関連事業
・塩谷町の指定廃棄物問題

12月14日、教育民生常任委員会の2回目の行政視察として、さくら市のごみの分別、減量、資源化の事業と、塩谷町の指定廃棄物最

終処分場候補地選定への対応について視察しました。

◆塩谷町の指定廃棄物最終処分場候補地選定への対応は、指定廃棄物処分場対策班を設置して町民と一体となって国に白紙撤回を求めており、候補地選定にあたっては、指定廃棄物の情報を共有して国民共通の問題として考えることを求めています。

見形町長から直接お話をいただき、その後、現地を視察しました。



候補地の入口付近

◆さくら市のごみ回収の特徴は、市庁舎などを拠点にしてプラスチック容器や蛍光灯などを回収したり、不燃ごみを月2回収など。可燃ゴミ用の指定袋は3種類あって、20ℓのゴミ袋は単身世帯

や高齢者世帯などゴミの少ない家庭からの要望で導入された。

総務企画常任委員会 産業建設常任委員会

行政視察の報告③

総務企画・産業建設常任委員会合同

- ・長野県の市田柿
- ・埼玉県のホンモロコ



工房前での所長説明

11月10日と11日の2日間、総務企画常任委員会と産業建設常任委員会合同の行政視察として、長野県みなみ信州農協の市田柿工房（高森町）と、埼玉県水産研究所及び(株)鈴木養魚場（ともに加須市）3カ所を視察しました。

◆市田柿は、長野県下伊那地方事務所が地域の畑作物として推進しており、昭和20年頃から畑作物として栽培されてきた地元産の干し柿が、市田柿として地域団体商標を取得して地域ブランドに至り、全国のデパートや量販店などに置かれるようになりました。柿は渋い点から鳥獣の被害に遭いにくく、耕作放棄地での取り組みに、柿の植栽と干し柿生産を進言してきましたと考えています。

◆埼玉県のホンモロコは、減反政策による休耕田の転作用として平成9年から普及されました。

水産研究所での研究成果と地域農家のホンモロコ養殖の取り組みについて、研究員の丁寧な説明を受け、その後、当町と深い関係のある(株)鈴木養魚場を視察し、鈴木社長から自家産卵と孵化に関して興味深い話を聞き、当町のホンモロコ養殖はまだまだこれからと感じられました。

(株)鈴木養魚場は、那珂川町のホンモロコ稚魚の買入れ先で、深い協力関係にあります。また、鈴木養魚場には、馬頭高校水産科の卒業生2名が就職しており、元気な姿に感激いたしました。

行政視察の報告④

那珂川町議会

- ・岩手県紫波町
- ・宮城県南三陸町

11月16日と17日の2日間、議員全員（欠席1名）による行政視察として、岩手県紫波町のまちづくり会社の状況と、宮城県南三陸町のバイオガス事業を視察しました。

◆紫波町は、岩手県の中央部に位置する人口3万3千人余りの町。地域資源を有効活用した循環型まちづくり事業で、立体的に事業を展開して雇用の場を生み出し、人口流出の抑止力となっている。立地条件の違いこそあるが、当



紫波町エネルギーセンターを視察

町においてもまだまだ未利用資源が埋もれており、地域おこし協力隊とともに掘り起こしていく必要がある。

◆南三陸町は、東日本大震災の津波被害で壊滅的な大打撃を受け、震災遺構を残しつつ、復興の新たな市街地建設が進められている。循環型社会の構築に取り組み、バイオマス産業都市構想を定め、その一つとして、廃棄物の減量を推進しており、生ごみのリサイクルによるバイオガスで電気と熱、農地散布の液肥を生み出している。当町の生ごみの減量化、堆肥化の参考としたい。（文面写真は、震災遺構の防災庁舎（罹災した旧南三陸町庁舎））



南三陸 BIO の生ごみ処理施設を視察

【広報委員会より】裏表紙で紹介しています。

《特別委員会の経過》

議会改革特別委員会

開催日 11月4日(第15回)

内容

議会報告会の開催について、最終確認を行いました。

開催日 11月18日(第16回)

内容

議会報告会の開催を受けて、意見交換を行いました。

開催日 11月25日(第17回)

内容

議会報告会の開催を受けて、意見交換を行いました。

議会改革特別委員会小委員会

開催日 12月8日(第21回)

内容

議会報告会での質問や意見要望について、討議いたしました。

開催日 12月22日(第22回)

内容

議会報告会での質問や意見要望について、2回目の討議を行い、町長への意見書提出を提案することといたしました。

新庁舎建設現場を視察

12月6日、新庁舎建設現場で、議場など内装中の状況を視察(第4回)し、工事関係者から工程や進捗状況の説明を受けました。



工事関係者から説明を聞く

■ 100tクレーンは撤収さ

れ、建物内部の配電・配管工事が進められています。内壁は町有林材が活用され、地元大工によって仕上げられています。

概ね2月中にはほぼ完成し、本年10月に新庁舎へ正式移転となります。

庁舎移転に伴って山村開発センターが取り壊されますが、同センターを事務所としていた建設課、農林振興課、環境総合推進室(生活環境課となります)、そして外郭団体の那珂川町農業再生協議会事務局が、本年4月から一足先に新庁舎で事務を執る予定になっています。

庁舎建設の状況は、
町ホームページでご覧になれます。

新庁舎建設

<http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp>

《視察来町》

茨城県八千代町議会

開催日 11月29日

内容

茨城県八千代町議会(定数14)の議会運営委員会の委員等13名が来町し、議会活性化や議会改革について、那珂川町議会の状況を視察しました。



八千代町議会 議会運営委員会と

【広報モニターより】「きらり」では、こういう人がいるということを知らせてもらいたい。

福島県石川町議会

開催日 1月25日
内容

福島県石川町議会（定数14）の議会運営委員会の委員等7名が来町し、議会活性化や議会報告会について、那珂川町議会の状況を視察しました。



石川町議会 議会運営委員会

那須烏山市議会

開催日 2月1日
内容

那須烏山市議会（定数18）の総務企画常任委員会の委員等7名が来町し、新庁舎建設についての状況を視察しました。

議会の日程&内容

平成28年

11月

- 1日～2日 教育民生常任委員会行政視察
- 4日 議会改革特別委員会 (第15回)
- 4日 全員協議会
- 5日 議会報告会(第1回) (すこやか共生館)
- 6日 議会報告会(第2回) (商工会館)
- 10日 議会だより第45号発行
- 10日～11日 総務企画常任委員会・産業建設常任委員会合同行政視察
- 12日 議会報告会(第3回) (盛谷体育館)
- 13日 議会報告会(第4回) (小砂コミュニティセンター)
- 16日～17日 議員行政視察
- 18日 議会改革特別委員会 (第16回)
- 18日 栃木県町村議会議長議員研修 (宇都宮市)
- 19日 総務企画常任委員会意見交換会 (町消防団)
- 21日 産業建設常任委員会意見交換会 (町農業委員会)
- 22日 教育民生常任委員会
- 26日 教育民生常任委員会意見交換会 (PTA連絡協議会外)
- 28日 全員協議会
- 29日 議会運営委員会 (12月定例会)
- 29日 茨城県八千代町議会議会運営委員会視察来町

12月

- 6日～8日 平成28年第7回議会定例会
- 6日 議会運営委員会
- 6日 新庁舎建設工事現場視察 (第4回、議場外)
- 7日 教育民生常任委員会 (請願審査)
- 8日 議会改革特別委員会小委員会 (第21回)
- 14日 教育民生常任委員会行政視察
- 22日 議会改革特別委員会小委員会 (第22回)
- 22日 議会広報特別委員会 (第8回、第46号発行)

平成29年

1月

- 10日 教育民生常任委員会
- 19日 総務企画常任委員会
- 19日 産業建設常任委員会
- 23日 議会広報特別委員会 (第9回、第46号発行)
- 25日 議会運営委員会
- 25日 議会改革特別委員会 (第17回)
- 25日 福島県石川町議会議会運営委員会視察来町
- 31日 議会広報特別委員会 (第10回、第46号発行)
- 31日 教育民生常任委員会

2月

- 1日 那須烏山市議会総務企画常任委員会視察来町
- 10日 議会だより第46号発行

【広報委員会より】皆様からも情報をお寄せください。

44号からスポーツ少年団の監督や代表者を紹介しています。

JFC Rivo リーグ
サッカースポーツ少年団

監督 藤田裕之さん
(小川)



なかちゃんが
聞きました。

Q サッカーとの出会いは?

A 小学生の時にサッカー人口が非常に多かったことと、兄の影響もあって始めました。

Q サッカーの指導はいつから?

A 28歳からこのチームの監督になって、今年で10年。10年は早いね。

僕自身は、今でも社会人のフットサルチームの現役選手だよ。

Q チーム名の「Rivo」の語源は?

A 1986年に「小川ジュニアサッカークラブ」を設立して、那珂川町に合併後、「Rivo」に変更し

た。イタリア語で「小さい川(小川)」という意味だよ。
Q 仕事と家庭とサッカーの両立って大変でしょ?

A サッカーが好きだから大変と思ったことはないよ。自分の子供たちもRivoに所属していたし、サッカーを通して伝えたいことも伝えることができたね。

Q 監督にとってサッカーって?

A 子供の頃からサッカー一筋でやってきたから人生そのものだね。

Q サッカーを通して子供たちに教えることは?

A 今は気づかなくても、大人になった時、たくさんの人に支えられてサッカーができたことに感謝をして、地域社会に貢献してもらいたいね。

Q 自慢話が聞きたいな?

A 高校時代には作新学院で全国大会に出場したことと、2013年に県で5人の優秀選手の1人に選ばれたことだよ。もっと頑張つて、もう一度優秀選手に選ばれたい。

Q 夢は?

A 教え子がプロサッカーの世界で活躍してくれること。

そして、サッカーを通して地域貢献できればと思っています。



フットサルチームの藤田さん



Rivoの子供達と(左端)



●表紙写真

議会を傍聴しませんか

皆さんの身近な問題などが審議されます。あなたも一度傍聴してみませんか。

次の定例会は、3月2日開会
(平成29年第1回議会定例会)の予定です。
議場は、小川庁舎3階です。

ケーブルテレビ(11ch)で議会が生中継されます。

編集後記

「どんど焼き」 睦月の小正月に行われる火祭り行事で、松飾りや注連縄などを焼き上げ(燃やす)て、無病息災・五穀豊穡を願う民間伝承行事です。

以前は各地域で子供育成会や地域の人々の手によって、この催事が引き継がれてきましたが、少子高齢化に伴って減少傾向にあります。

下野新聞に指定無形民俗文化財の指定解除、休止の記事が掲載されましたが、その背景には、どれも過疎や少子化、若者の流出などによる担い手不足があるようです。

「富山ささら舞」(前号の表紙写真)は350年以上にわたり伝承されており、この他にも町内各地域に伝統的行事が数多くあります。

町活性化の起爆剤として、これらの伝統的民間伝承を保護、持続させていくことも、町づくりに貢献するのではないかと思います。

「小さいながらも楽しい那珂川町」を目指して。

議会広報特別委員会

佐藤 信親

第7回12月定例会の

議会傍聴者数

12月6日	11人
7日	5人
8日	1人

●表紙写真

小正月とんど焼き(久那瀬)

久那瀬子ども会育成会の毎年賑やかなとんど焼き。細沢の田で、県道脇だということもあって、通り行く人も車を停めて珍し気に見物しています。

町内では、久那瀬のほか、小口や北向田、浄法寺など各地で、毎年実施されています。神事も手伝って、不思議と風が止みます。